



JR 北信太駅周辺地区 まちづくり懇談会（第1回）



基本計画のレビューと検討課題

1. 基本計画のレビュー	1
2. 北信太駅周辺地区の検討課題	3
3. 検討にあたっての重要な視点（検討課題図）	4
4. 施設整備検討部会について	5

令和元年8月21日

和泉市都市デザイン部道路河川室

1. 基本計画のレビュー

整備コンセプト『使いやすく住みやすい 和泉市北の玄関口のまちづくり』

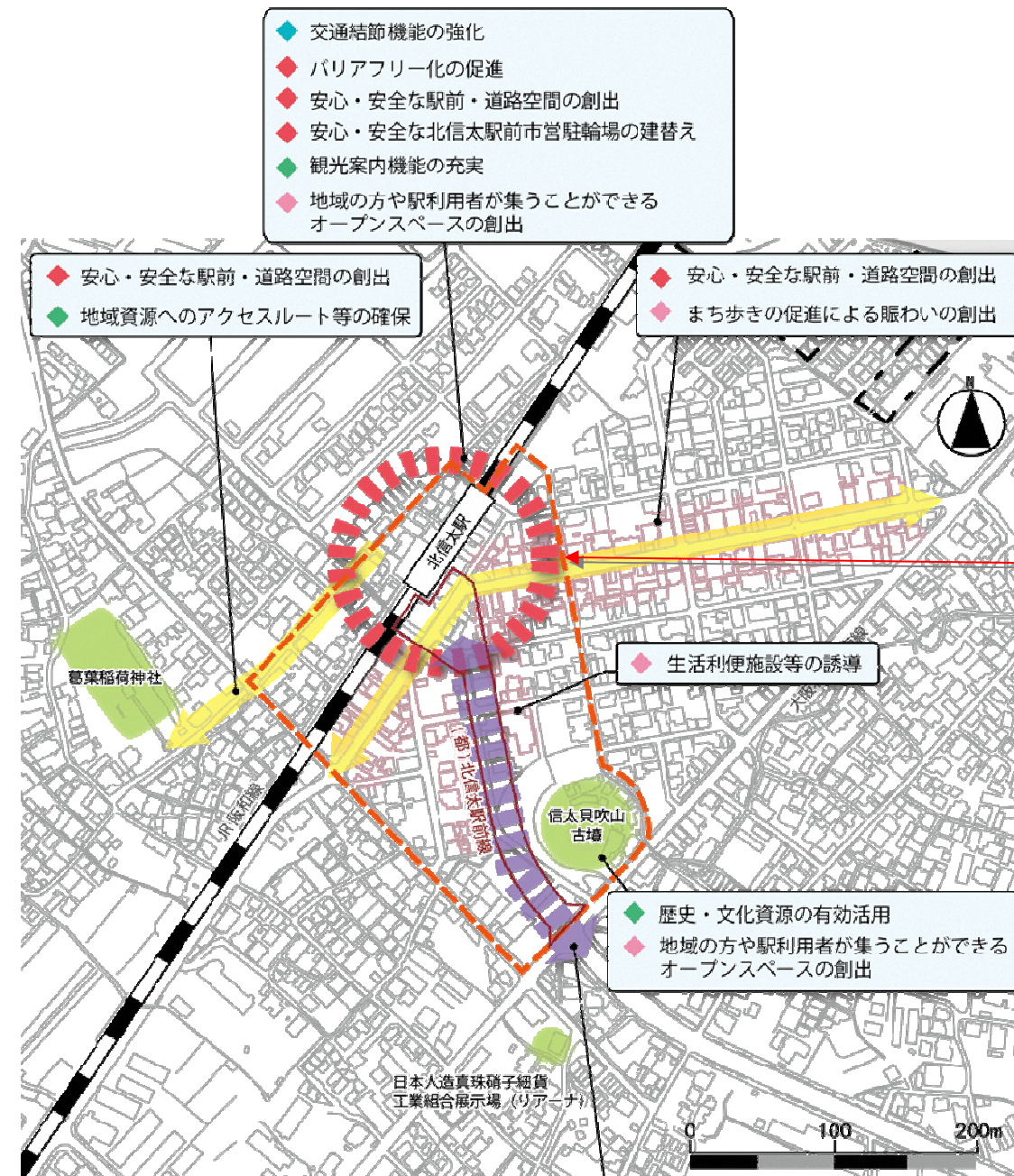
整備方針

1. 誰もが円滑に移動できるまちづくり
和泉市の北の玄関口として、鉄道やバス、タクシーなどの地域公共交通や自転車、歩行者など、誰もが利用しやすい環境の整備を目指します。

2. 誰もが住みやすい安心・安全のまちづくり
生活道路や通学路の安全性を高めたり、バリアフリー化を進めることによって、誰もが安心・安全に生活できる環境を目指します。

3. 歴史や文化を活かした住みたくなるまちづくり
道路付属物等の景観に配慮するなど、信太貝吹山古墳や葛葉稲荷神社をはじめとした、歴史や文化を感じる住環境の保全・創出を目指します。

4. 日常生活の拠点となるまちづくり
主に地域住民の方々が気軽に集い、日常生活で利用できる沿道の生活利便機能や賑わいを備えた環境の整備を目指します。



■ 駅前広場の整備に関しては、バス・タクシー・一般車の乗降場の施設配置のほか、自由通路などバリアフリーへの配慮や環境空間（憩いの場等）の確保などを行うものとしております。



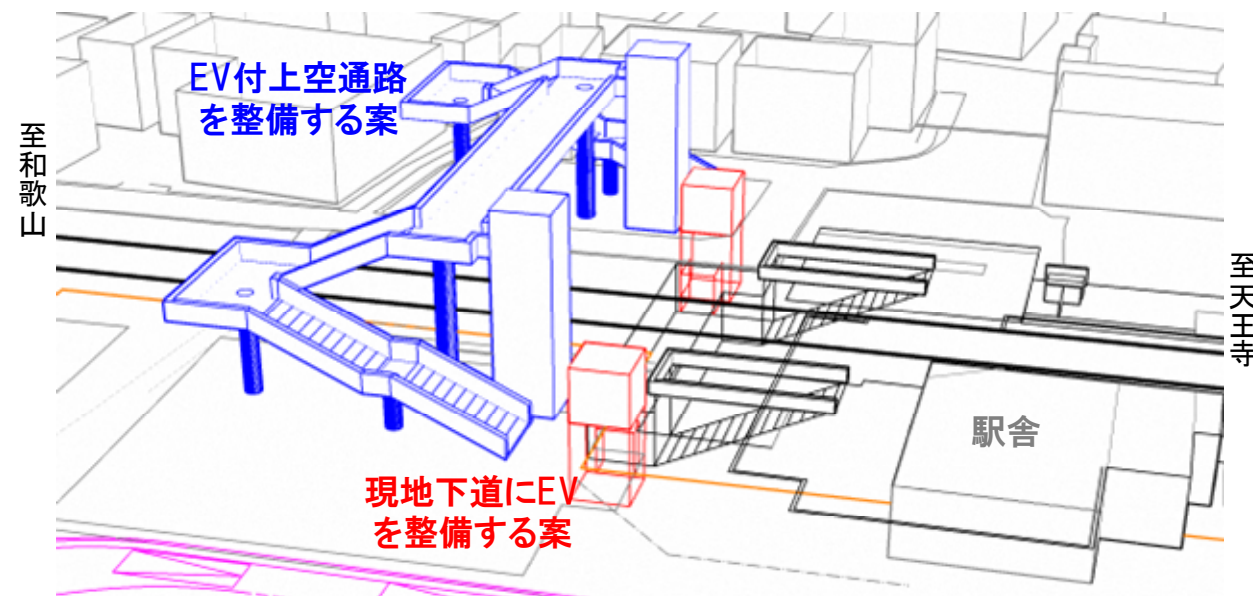
■ 駅前広場の整備イメージ ■

- 北信太駅前線の整備に関しては、幅員20mにおいて、自転車レーンの設置や、沿道利用のための停車帯の設置のほか、シンボル性の高い空間整備を目指すものとしております。
- 市営駐輪場建て替えに関しては、北信太駅前線の沿道に設置する予定であり、収容台数は他の小規模駐輪場が無くなった場合を想定し、最大350台程度収容するものとしております。



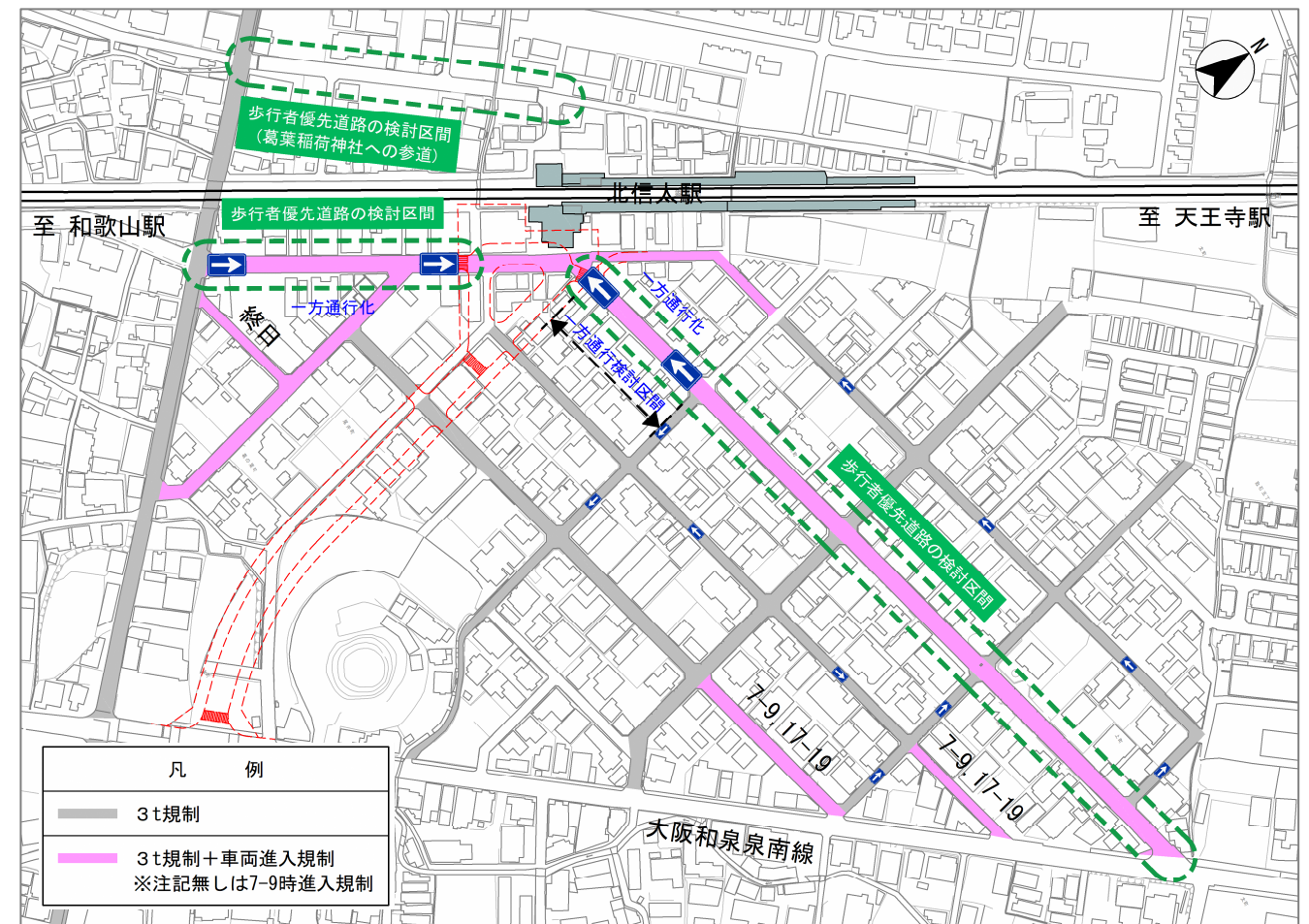
■北信太駅前線の整備イメージ■

- 東西自由通路のバリアフリー化に関しては、エレベータ付き上空通路を優位な案としており、駅西口の整備も含め、今後、鉄道事業者などとの協議を踏まえつつ検討するものとしております。

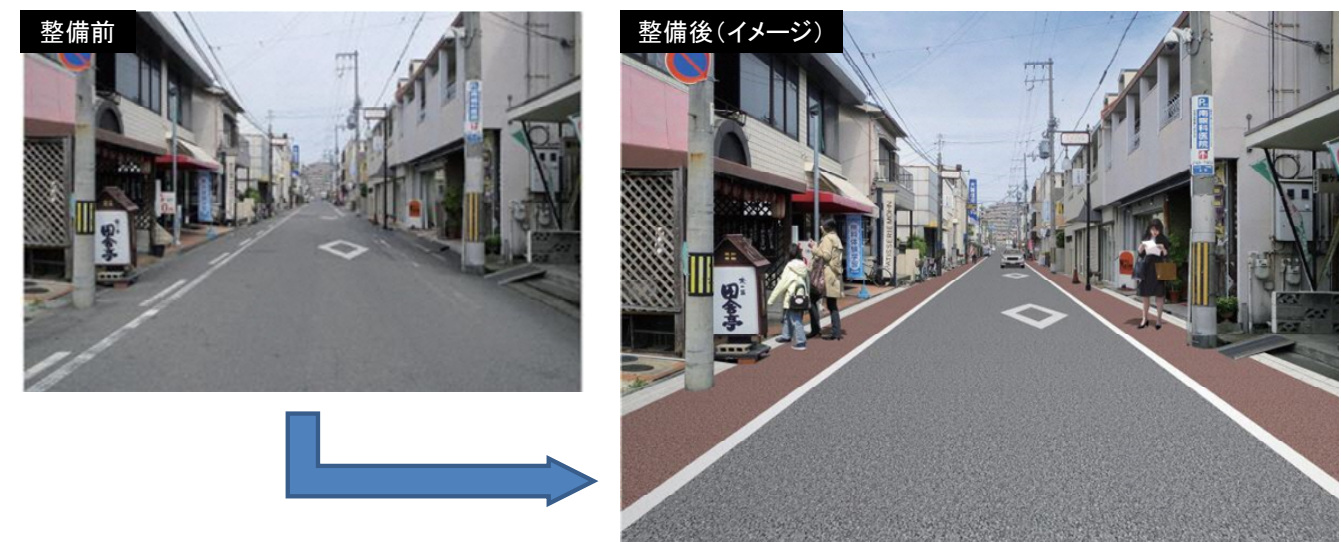


■東西自由通路のバリアフリー化イメージ■

- 駅前広場周辺道路（アクセス道路）に関しては、一方通行化やカラー舗装、通過交通を抑制する路面表示等を工夫することで、歩行者優先の道路空間整備に向け検討するものとしております。



■駅前広場周辺道路の歩行者優先化イメージ■



■歩行者優先道路の整備イメージ■

2. 北信太駅周辺地区の検討課題

●駅前広場、北信太駅前線など駅周辺整備によって、利便性や安全性の向上や地域の活性化が見込まれますが、一方で、「利便性向上と環境保全の両立」や「歩行ネットワークの創出を契機としたまちづくり」の重要性から、基本計画の実施に向け、『①駅前広場周辺道路の歩行者優先化・規制』『②地域資源の活用による地域活性化』といった2つの検討課題が考えられます。

北信太駅前を取り巻く現状

歩行者や駅利用者の危険性

- 駅利用者の約85%が徒歩・自転車利用に関わらず、駅前には歩道が無く通過交通が発生し、歩行安全性が低い。



駅舎前の混雑

交通結節機能の不足

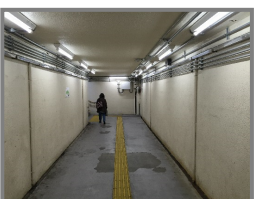
- 東口は、狭幅員のアクセス道路に車両・自転車・歩行者が混在
- 駅とバス乗降場が離れるなど、交通結節機能が不足。



アクセス道路

バリアフリー・防犯面で問題ある自由通路

- 地下自由通路は、ピーク時間帯で約千人の利用者があるが、バリアフリー、防犯面に問題がある。



地下自由通路

市営駐輪場の建て替え

- 駅前広場の整備に伴い駐輪場の移転整備が必要となるが、現状において自転車と車両の交錯がみられ、危険である。

地域資源の魅力の情報発信の不足

- 地域固有の財産（だんじり祭り、葛葉稻荷神社、信太貝吹山古墳、人造真珠など）が十分に活かされていない。



だんじり祭り

生活利便施設、オープンスペースの不足

- 主要な生活利便施設が駅から離れた鶴山台団地方面に集積。
- 駅周辺に地域の方や駅利用者が集うことが出来る空間が確保されていない。

基本計画の整備の考え方

駅前広場の整備

- ・各交通の乗降場を駅近接部に確保
- ・ロータリー内での車両の一方通行化
- ・歩行者の環境空間（滞留空間）の確保
- ・地域性に配慮した景観デザイン



整備イメージ

北信太駅前線の整備

- ・府道から駅への直接のアプローチ路
- ・自転車や歩行者の安全な空間創出



整備イメージ

駅前広場の周辺道路の歩行者優先化

- ・一方通行化や路面標示の工夫による歩行者の安全対策・通過交通の抑制

東西自由通路の整備

- ・E/V完備の上空通路整備によるバリアフリー対応、踏切横断の安全対策、防犯対応

市営駐輪場の建て替え

- ・最大350台程度での北信太駅前線の沿道への建て替え

生活利便施設等の誘導、広場空間の確保

- ・居住促進区域での生活利便施設等の誘導
- ・郊外学習等の集合同所、ベンチの設置等

整備によって見込まれる効果

- 駅前広場と北信太駅前線の整備によって、駅へのアプローチが容易に！
⇒府道からのアプローチがしやすく、周辺地域からの駅利用が容易。
⇒生活道路の交通量の減少に繋がる主要な車両動線を確保。
⇒駅から周辺地域へのアプローチがしやすく、来街者にも分かりやすい。

- 駅前広場、駐輪場の整備により、鉄道とバス・タクシー・一般車等への乗り換えが容易に！
⇒停車スペースの確保による混雑緩和
⇒歩行者・自転車・車両の分離が図られ、交通の整序化と安全確保が可能
⇒鉄道乗り継ぎのバリアフリー化
⇒駅周辺での駐輪台数の確保

- 駅前広場の周辺道路の歩行者優先化により、生活環境を改善することが可能！
⇒一方通行化や交通規制の強化などにより、周辺地域から駅前にアプローチしている車両の北信太駅前線への転移を促進。
⇒まち歩き促進による賑わい創出

- 自由通路の整備や古墳周辺でのオープンスペース創出により、生活者・歩行者に優しい空間づくりが可能！
⇒歴史文化資源（古墳）の有効活用による市民の憩いの場の創出
⇒駅周辺地区としての市街地の一体化、安全な通学路の確保
⇒生活利便施設等の立地の誘発

考えられる検討課題

- 駅周辺整備にあたっては、利用者にとっての「利便性向上」と生活者にとっての「環境保全」を両立させることが重要となります。
- 特に、駅前広場や北信太駅前線の整備は、駅利用者にとっては利便性が向上しますが、車両交通が誘発され、駅直近部の住民にとっては、駅周辺道路に通過車両が流入する懸念があります。

★検討課題①：駅前広場周辺道路の歩行者優先化・規制
駅前広場の周辺道路の歩行者優先化をどうすれば、利便性と環境保全を両立できるか？

- 駅前広場を起点とした自由通路の整備、周辺道路の歩行者優先化、古墳周辺でのオープンスペース創出など、安全で潤いのある歩行ネットワークの創出が可能となります。
- 駅前広場等において、景観に配慮した整備を行ったり、まち歩きの促進、オープンスペースの利活用による賑わい創出など、まちづくりに繋げていく必要があります。

★検討課題②：地域資源の活用による地域活性化
駅前整備に付加価値を生むハード（景観整備）とソフト（賑わい創出）をどうするか？